

## 論文審査の結果の要旨

申請者の博士論文研究は、近年急速に普及し始めたシェアリング・エコノミー・プラットフォームによる P2P 民泊施設の出現の実態とその特徴、住宅市場への影響度についてタイ・バンコクを研究対象地域として検証したものである。その研究内容は、①バンコクにおける P2P 民泊施設 (Airbnb) の急成長の実態とその要因、②P2P 民泊施設の物件タイプ・立地特性・建築的特徴、③ P2P 民泊施設の実質的な稼働状況とその所有者の継続・非継続の意思決定メカニズム、④住宅から P2P 民泊施設への転換傾向とその要因、⑤P2P 民泊施設の賃貸住宅市場セグメント別影響度に関する分析により構成される。これらを通じて、バンコクにおける P2P 民泊施設の実態と要因構造を包括的に解明し、その住宅市場への影響を住宅タイプ・家賃・立地セグメント別に明らかにしている。シェアリングエコノミーの社会経済的影響、とりわけ P2P 民泊施設の住宅市場への影響評価は世界的にも注目される学術研究テーマであり、本研究はこれまで十分な研究が進んでいないアジア新興国大都市における民泊型シェアリングエコノミーの研究蓄積に大きく寄与するものである。とりわけ、P2P 民泊施設の主要タイプであるアパートメントとコンドミニアムについて、Airbnb への転用メカニズムを旅行客需要・嗜好性、立地条件、対投資収益 (ROI)、ホテルとの競合、オーナーの特質と運営キャパシティ、法的規制とコンドミニアム内の管理ルールという観点から包括的に明らかにし、所得階層別賃貸住宅市場セグメント (住宅タイプ・家賃セグメント別) への影響度を明らかにしたことは高く評価される。

関連して公表された研究業績では、主論文として査読付き専門誌論文 2 編、査読付き大学紀要論文 1 編、国際学会発表論文 1 編 (アブストラクト審査付き) を有し、他に研究発表 2 編を有している。また、公聴会における研究発表と質疑応答についても、適切に対応している。論文執筆、公聴会における発表と質疑応答は全て英語によって行われており、その研究成果は国際的な通用性を十分に有している。

以上、申請者の博士研究論文は学位論文としての条件を兼ね備えていると評価でき、また、申請者は都市情報学研究科博士後期課程のディプロマポリシーに示された能力を十分に身に付けていることも確認した。よって、申請者に学位を授与することを妥当なものと判断する。